

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立江東商業高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(教務主任兼務)=事務局長、教務部員2名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画課（室）長、主幹教諭(教務主任)、主幹教諭(生活指導主任)、主幹教諭（進路指導主任）、主任養護教諭（保健主任） 計7名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
学識経験者(大学准教授)、PTA会長、同窓会会長、近隣中学校長、近隣自治会長、近隣自治会連合会副会長、警察署生活安全課2名 計8名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年6月15日（水曜）内部委員7名、協議委員5名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和4年11月17日（木曜）内部委員7名、協議委員7名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和5年2月9日（木曜）内部委員7名、協議委員2名
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年10月22日（金曜）内部委員3名、協議委員3名 （書面開催）
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和4年11月17日（木曜）内部委員3名、協議委員2名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月 全校生徒	対象：429人	回収：423人	回収率：98.6%
・12月 保護者全員	対象：429人	回収：240人	回収率：55.9%
・12月 地域・住民	対象：31人	回収：31人	回収率：100%
・12月 教職員	対象：44人	回収：434	回収率：100%
- (3) 主な評価項目
 - ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、教育相談、健康・安全、施設・設備、ライフ・ワーク・バランスの推進
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・生徒はおおむね本校の教員の授業について満足しているが、教科・科目によっては必ずしも満足していない。将来社会で役立つ知識や資格取得への意欲は高い。
 - ・生活指導は、保護者から90%以上の支持率を得ているが、一部の生徒の中には厳しいと不満をもつ者もいる。マナー指導や遅刻指導への理解は高い。
 - ・コロナの影響で実施できなかった、または縮小した学校行事について、満足度は低い。
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
 - ・「生徒による授業評価」の実施等により生徒の声を聞くとともに、教科担当者が指導計画、評価等について更に説明を行うことが大切である。ICTヲ活用した授業への取り組みへの評価が高い。

- ・生活指導は、あらゆる機会を捉えて、マナー指導や遅刻指導について意識を持たせる指導が必要である

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒の授業についてのアンケート結果から、授業改善に向けた校内研修の実施、充実が必要であると認識できた。

・

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・近隣の住民は、学校の教育機能をより一層活用したいと望んでいる。交流の活性化を図りたい。
- ・地域の人材活用を一層推進するとともに、地域の資源を活用した公開講座等の考案があればよい。
- ・コロナ感染症対策による生徒の士気の低下、学校生活満足度の低下が心配である。
- ・より適正な評価を行うためには、協議委員に対して、もっと情報提供すべきである。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

- ・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。
- ・生活指導については、今まで以上に保護者との連携を強化する。本校の教育目的に合わせた指導がなされている。

（2）学習指導

将来社会で役立つ知識や技能（資格取得など）を身に付けることができている。授業態度は落ち着いている。オンライン学習の充実に向けた授業改善を中心に校内研修を実施する。

（3）特別活動

感染対策を講じながら、実施方法を工夫し、学校行事を行った。部活動について、生徒の活動場所や時間の確保、練習方法の工夫に努める。

（4）生活指導

遅刻者の増加が最も大きな課題である。新たな指導方法を検討している。

（5）進路指導

公務員合格者1名輩出など生徒の希望に沿った進路指導が実施された。引き続き公務員対策への取り組みと進学希望者の増加に伴う指導の充実を図る。

（6）健康・安全

コロナ感染症対策が十分に図られ、健康についての自己管理の習慣と予防対策の徹底が図れた。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

（1）協議委員人数 8人

（2）学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
6	1	0	0	0	0	1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

【成果】

8 その他

- ・アンケートをデジタル化するのは新しい試みである。地域アンケート数の増加を望む。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。生徒を地域の中で活躍させる工夫がほしい。
- ・学校の様子を動画で配信するなど、学校理解の更なる充実を望む。